

歌詞に松尾芭蕉の句を織り交ぜた  
山中節を披露する本條さん(左)  
＝加賀市山中温泉の芭蕉の館

## 加賀・芭蕉祭で本條さん披露



# 俳聖の句 山中節に乗せ

加賀市山中温泉に伝わる民謡「山中節」の歌詞をアレンジし、俳人松尾芭蕉が山中温泉滞在中に詠んだ句の一節を織り込んだ曲が7日、同所で開催中の芭蕉祭(北國新聞社後援)で初披露された。俳聖の句を三味線の演奏に合わせて情緒豊かに歌う曲に仕上がりが、かつて石原裕次郎さんや森光子さんが「日本一」とたたえた山中節の旋律に乗せて発信する。

## 「湯の匂ひ」情緒豊かに

曲を手掛けたのは、三味線奏者で作曲家の本條秀太郎さん(東京)。山中温泉本町振興会が、昨年9月の芭蕉祭にゲスト出演した本條さんに対し、俳聖の句を歌詞に入れた山中節の制作を依頼していた。

本條さんは芭蕉が「奥の細道」の吟行で詠んだ俳句「山中や菊は手折らじ湯の匂ひ」を、山中節の旋律に合うように「置手をひへ山中路を菊は手折らじ湯の匂ひ」と手を加え、三味線の伴奏で歌う曲に仕上げた。

山中節は江戸後期から末期にかけて、共同浴場「総湯」の浴客と、客に浴衣を提供する女性の掛け合いから、現在の曲が生まれたとされる。戦前までは浴客の好みや出身地に応じて

歌詞を変えて歌うことが多かったと伝えられ、約10通りの歌詞が作られたが、大半は時代の変遷とともに消え、現在歌い継がれているのは20通りほどという。

本條さんは7日、同所の資料館「芭蕉の館」で開かれた演奏会で曲を初披露し、「ほかの俳句をアレンジした曲も作っていきたい」と意欲を示した。本町振興会の石川光良会長は「完成度の高さに満足している。芭蕉の句と山中節の裾野が広がるきっかけになればうれしい」と話した。